

文化奨励賞

月を愛でる会



有田川町に生まれた高僧「明恵上人」を顕彰し、その偉業と生き様を寄り広く知ってもらいたいという想いで発足したのが『月を愛でる会』である。

会の発足は、今を去ること20年前に遡る。鳥屋城山に昇る月を見て感動した会員が『あかあかや…』という有名な明恵上人の歌を心に浮かべ、上人と同じ感動を皆と共有したいと、観月会を催したことに端を発する。参集した人々の口に上ったのは、明恵上人という名前は聞いたことはあるが世間一般にはその生き様や偉業が知れ渡っていないのではないかという疑問であった。かの川端康成氏はノーベル賞受賞記念講演で明恵上人について語った。また河合隼雄氏や白州正子氏など多くの著名人にも影響を与えているということも踏まえ、明恵上人を世にもっと知って頂き、郷土の偉人として顕彰していこうとの想いと気運が高まり、会の名称は月の歌人と呼ばれていることにちなみ『月を愛でる会』として、活動を開始した。

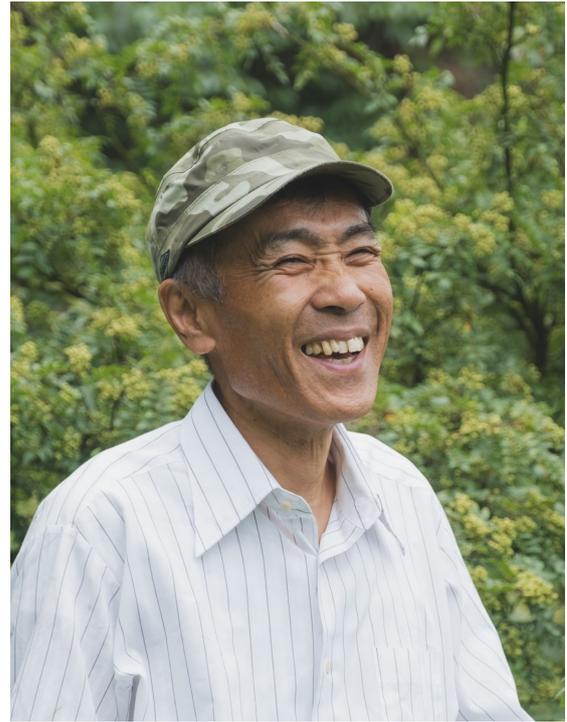
現在160余名の会員を有し町内は無論、全国に広く顕彰活動を行っている。明恵上人を学ぶ研修会を始め、実地学習や修行の地を巡るツアー、観月会、講演会、機関誌発行など多岐にわたり活動を行う。

今年は明恵上人生誕850年に当たるため、会ではこの機会に上人についてより知って頂く為の多くの事業を実施。

有田川町に生まれた明恵上人を顕彰するこれらの活動は本町文化振興に貢献しており功績は大であり、今後の更なる活躍を期待するところである。

文化奨励賞

白藤 勝俊



昭和30年生まれ。杉野原在住。

高校卒業後は、東有田農業協同組合（現：ありだ農業協同組合）に就職。農業振興に携わった後、清水地域の伝統産業である保田紙を製造する「清水高齢者生産活動センター（現：体験交流工房わらし）」の事務長に転じて12年務め、紙すき文化の振興に尽力した。

家業であるぶどう山椒農家としても、祖父が清水の山椒生産組合の初代組合長であったことから、山椒栽培の歴史を熟知。ぶどう山椒の発祥や広範囲での栽培のきっかけとなった適した台木の発見など、貴重な話を現代に伝え、メディア出演など、多方面に同地域の農山村文化を発信している。

令和3年からは、地域の語り部として、出身地である遠井に伝わる空海伝説や民話を語り継ぐ活動に注力。江戸時代に歴代紀州藩主が和歌山城から遠井を經由し、龍神温泉まで湯治に通った「龍神街道」の道普請を中心に、体験イベントを定期的を開催する団体「project_toi」を主宰している。同団体のイベントには、町内・県内はもちろん県外からも参加者がおり、文化振興の観点から有田川町の関係人口増加の一翼を担っている。トークイベント等への登壇も多数。

これらの活動は当町の文化活動に大きく貢献しており、今後より一層の活躍が期待するところである。